



中森 省吾 社長

米系CRO（医薬品開発支援機関）のパレクセル・インターナショナルは、新薬開発の計画段階から市販後まで幅広い開発支援サービスを提供している。製薬各社が投じる研究開発予算は横ばいだが、アウトソーシング比率は年々高まっている。同社は医療現場との連携強化やITなどを活用した効率化に力を入れ、開発成功確率の高いサービス体制を磨いていく。

日本の製薬業界でもCROを活用した新薬開発が当たり前となり、パレクセルのCROサービスもフル稼働状態が続いている。日本事業の従業

員数は1300人を突破しているが、来年からはモニターを中心に100人単位で増員し、受託体制をさらに強化する。米本社は投資ファンドによる買収、上場廃止、トップ交代と経営体制が大きく変わったが、日本法人の中森省吾社長は「日本市場に対する期待と重要性は変わらない。今後も毎年2ケタの業績成長を続けていく」と話す。

効率的な臨床試験を遂行するには、治験実施施設や医療関係者との連携が極めて重要になる。同社は特定の医療機関などと提携を結んで、新薬開発に関する情報共有の機会

医療現場と連携、IT活用

を増やすアライアンス戦略を推進。グローバルで医療機関330件以上とアライアンスを締結し、日本でも6施設と提携した。被験者数の増加や脱落リスクの低減、治験立ち上げまでの時間短縮など、目に見える効果が出ているという。

SNS（ソーシャルメディア）などを活用した治験効率化の取り組みも行っている。SNSで発信されている疾患や治療に関連する特定のキーワードを抽出し、潜在的な症例の動向を人工知能（AI）が解析して治験計画に役立てている。

グローバルな人材育成にも貢献する。「グローバルな議論の場で、肝心なところに日本人が入れない状況を変えた」（中森社長との思いから、京都薬科大学、明治薬科大学と共同教育プログラムを実施。米本社などから講師を派遣し、学部生に対し臨床開発の基礎を英語で学ぶ機会を設けている。

開発支援サービスに磨き